

岩手山の火山活動解説資料

仙台管区气象台
地域火山監視・警報センター

岩手山では、微小な火山性地震が増加している中で、8月2日以降振幅の小さな火山性微動が観測されています。今後の火山活動の推移に留意してください。

【防災上の警戒事項等】

黒倉山や大地獄谷付近では、噴気や火山ガスの噴出等が見られます。ヘルメットの携行や立ち入り規制等地元自治体の指示に従ってください。

噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・地震や微動の発生状況（図1、図2-②~⑦）

岩手山では、山頂付近で2020年4月頃から火山性地震の発生頻度がやや高い状態で推移しており、黒倉山付近では2024年5月頃から微小な火山性地震が増加しています。

また、8月2日以降振幅の小さな火山性微動が観測されており、5日10時までに3回観測されています。火山性微動が観測されたのは、2024年4月3日以来です。

・地殻変動の状況（図3、図5）

GNSS連続観測では、2024年初め頃から岩手山の山体を挟む一部の基線でわずかな伸びの変化が認められています。

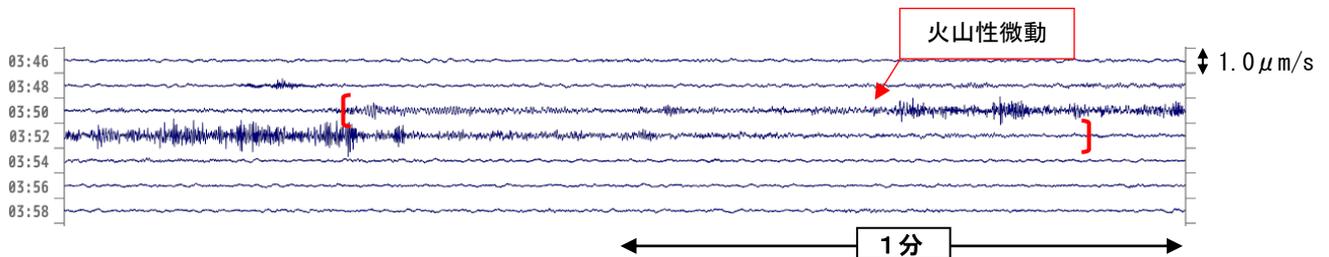


図1 岩手山 松川（防災科学技術研究所）観測点（上下成分）での火山性微動の発生状況
(2024年8月5日03時46分~04時00分)

- ・ [] は火山性微動の発生時を示します。

5日に振幅の小さな火山性微動が1回発生しました。継続時間は3分21秒、松川（防災科学技術研究所）観測点（岩手山山頂の西北西約7km）の最大振幅は0.68 μm/sでした。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページで閲覧することができます。

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php

資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、東北大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の「数値地図50mメッシュ（標高）」を使用しています。

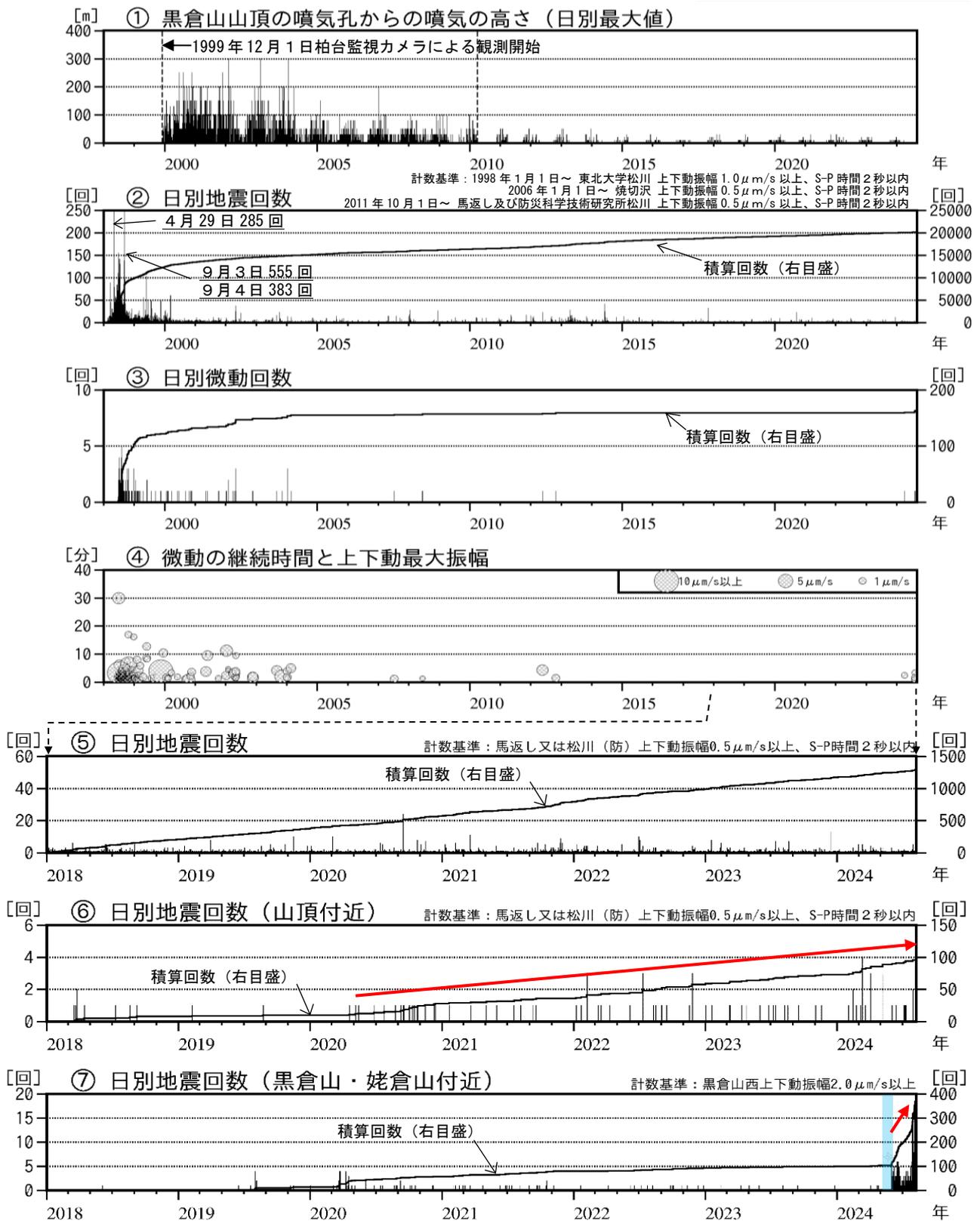


図2 岩手山 火山活動経過図 (1998年1月～2024年8月5日09時)

- ・①2010年3月までは黒倉山のみ観測値を、2010年4月1日以降は岩手山全体の観測値を示しています。
- ・②2000年1月以降は滝ノ上付近の地震など山体以外の地震を除外した回数です。
(1998年から1999年までは滝ノ上付近の地震など山体以外の地震を含みます)
- ・⑦黒倉山から姥倉山付近で発生した微小な火山性地震のみの日別地震回数であり、②⑤日別地震回数には含まれていません。
- ・⑦青部分は黒倉山西観測点の欠測により、微小地震の検知力が低下している期間を示します。

山頂付近では、2020年4月頃から火山性地震の発生頻度がやや高い状態で推移(⑥赤矢印)しており、また黒倉山から姥倉山付近では、2024年5月頃から微小な火山性地震が増加(⑦赤矢印)しています。

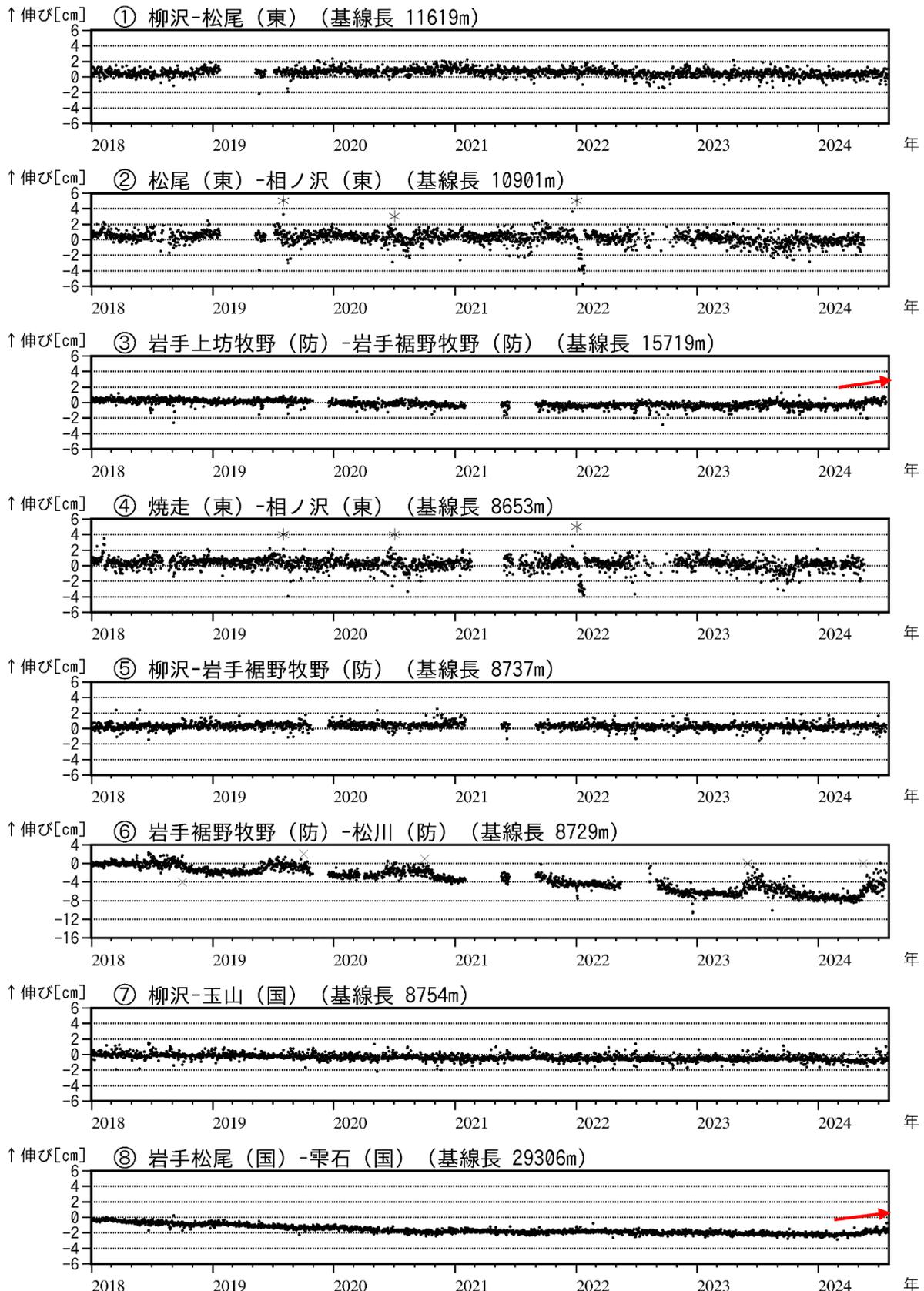


図3 岩手山 GNSS 基線長変化図 (2018年1月～2024年7月31日)

- ・①～⑧は図5のGNSS基線①～⑧に対応しています。
- ・空白部分は欠測を示します。
- ・(国)は国土地理院、(東)は東北大学、(防)は防災科学技術研究所の観測点を示します。
- ×: 松川(防)観測点に起因する変化で、火山活動によるものではないと考えられます。
- *: 相ノ沢(東)観測点に起因する変化で、火山活動によるものではないと考えられます。

GNSS 連続観測では、2024年初め頃から岩手山の山体を挟む一部の基線でわずかな伸びの変化(赤矢印)がみられています。

